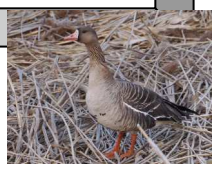
滝高フロンティアサイエンス通信

H27.5.1　SSH・理数科
第　2　号



ＳＳＨ 第１回サイエンスツアー
「春の渡り鳥（マガン）観察会 in 宮島沼」

を実施しました（４月２７日（月））。

＜ラムサール条約登録湿地＞である宮島沼へ、
参加希望生徒２７名、教員６名にて、『**マガンのねぐら入り**』を観察してきました。

まずは、**宮島沼水鳥・湿地センター**にて、地域の環境保全活動の概況を学びました。その後、本校理科教諭、長澤先生より双眼鏡の使い方を教わり、実際にねぐら入りするマガンの計数に挑戦しました。

先週までは、過去最高計数の７９，９８０羽を記録しており、期待に胸を膨らませ現場に到着。週末の南風の影響もあって、半数以上のマガンはカムチャツカ方面へ渡ってしまっていましたが、天候にも恵まれ、約２万４千羽のマガンのねぐら入りを観察することができました。更に、対岸のオジロワシに警戒したマガンの大群が、３度も急接近！！行き・帰りのバスの中では地元、空知の自然の素晴らしさを長澤先生より熱く解説していただき、地域の自然が支える貴重な渡り鳥の生態観察だけでなく、人と自然の共生（共存・共栄）について考える貴重な機会となりました。

宮島沼水鳥・湿地センター内にて

観測場所前の看板にて集合写真

ねぐら入りのマガンを待つ滝高生たち

湿地の植生について学ぶ

夕日越しにマガンのねぐら入り（落雁）

●宮島沼水鳥・湿地センター

四季折々の宮島沼の自然を楽しみ、地域の自然や農業とのふれあいの場を提供する「体験型」ネイチャーセンター

●ラムサール条約湿地 宮島沼

2002 年 11 月に、「国際的に重要な湿地」として、ラムサール条約に登録。北海道には、ウトナイ湖や釧路湿原など、12 箇所のラムサール条約登録湿地がある（全国には３３箇所）。ラムサール条約とは、湿地とそこに暮らす生きものを守るための、国際条約です。

※マガンの見頃は春と秋です。

＊本校では、ＳＳＨに関するご意見、ご質問等はいつでも受けています。
ＳＳＨ担当：菊池・長澤までお願いします。（北海道滝川高等学校　0125-23-1114）